

Jミルクが2023年1月27日に公表した「需給見通し(※2022年11月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

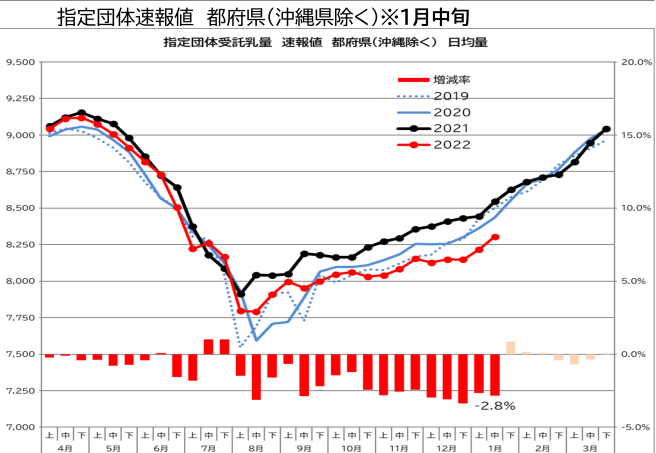
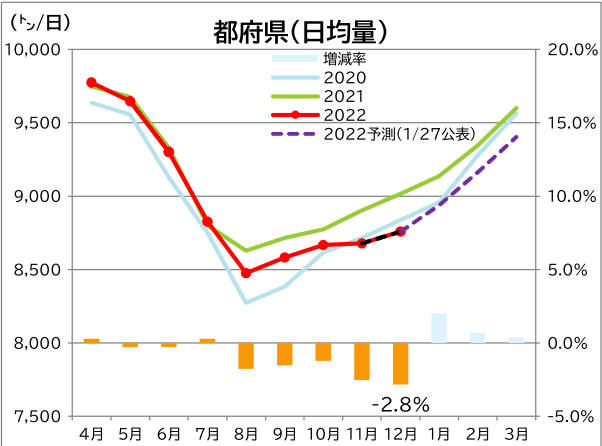
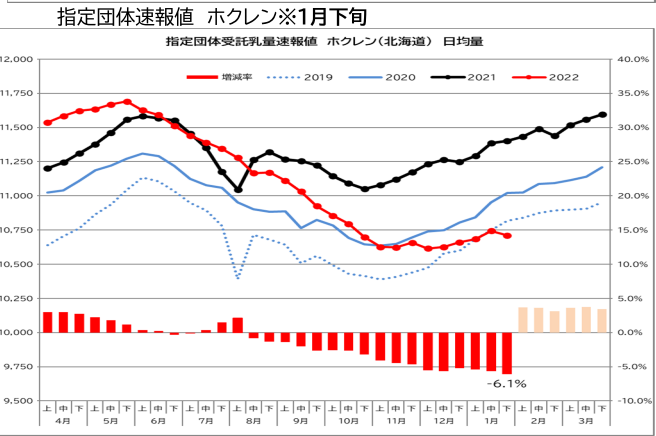
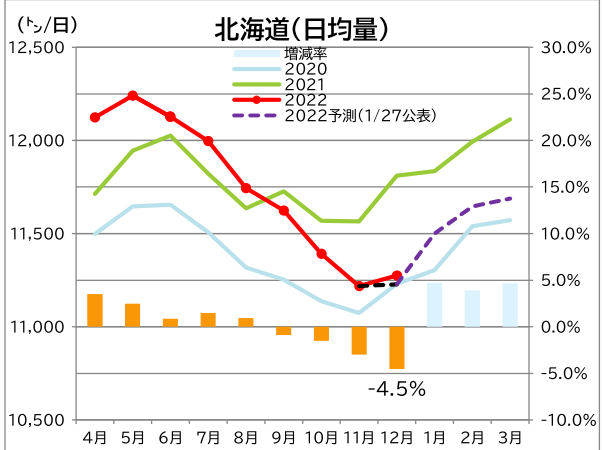
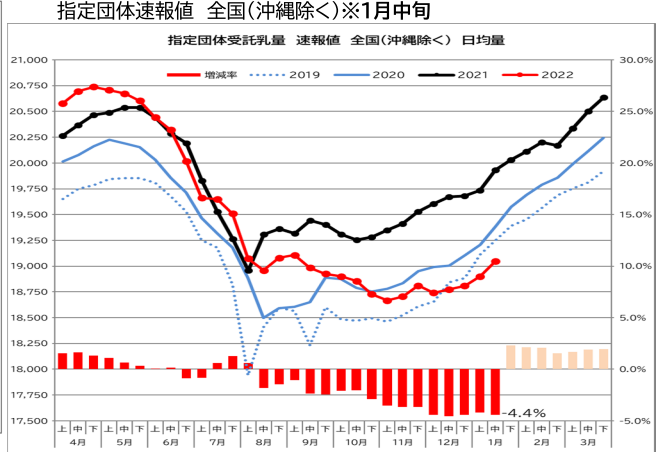
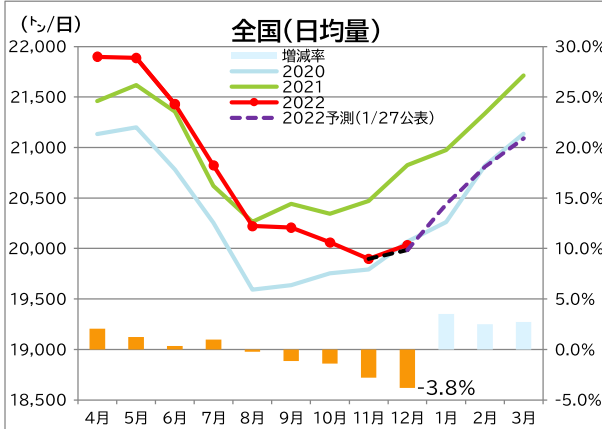
発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

「牛乳類需要は低調～年度末に向けて継続的な取り組みを」

- ・12月の生乳需給実績について、飲用等向は低調な推移が続いており前年比▲2.0%と下回った。一方で、生乳生産量は北海道・都府県ともに減少率が拡大傾向であり、全国では前年比▲3.8%と今年度最大の減少率を更新した。その結果、乳製品向は生乳生産量の減少が大きく起因し、前年比▲5.6%と大きく下回った。なお、全国指定団体受託乳量(速報)では1月以降も前年比で▲4～5%で推移しており、2月以降の生産量も前年を下回って推移するものと見通される。
- ・乳製品向の仕向量減少から脱脂粉乳・バター生産量も減少しており、脱脂粉乳は7月以降、バターは9月以降から前年を下回っている。脱脂粉乳は全国協調の在庫解消対策と北海道(ホクレン)の国産脱脂粉乳への置換対策の効果による推定出回りの増加も重なったことで、在庫量は前月に比べ減少した。バターについては、業務用需要が引き続き回復傾向にあるため推定出回りは前年を上回っており、輸入売渡分を考慮しても在庫量は前月よりも減少した。両品目ともに在庫量は減少傾向にあるものの、依然として高い水準が継続しているため在庫対策を含めた需要確保対策による在庫消化が不可欠となっている。
- ・1月の牛乳販売動向(インテージSRI+実績:前年比92.8%、Jミルク予測(牛乳業務用以外):93.4%)については、農水省の牛乳乳製品統計が高めとなる傾向にあることから予測値水準並みとなる可能性が十分考えられる。
- ・11月以降、牛乳類の値上げに伴い価格水準の低い乳飲料へシフトしている動きがみられるが、店舗業態別にみてもSMが前年を下回る推移である一方、HC、DRUGチェーンは前年並み～上回っており、店舗業態の動向からも消費者の価格志向が強まっている可能性がある。
- ・食料品・電気料金等の値上げが相次いでおり、今後も買い控えの動きが懸念される。一方、生乳生産量は気温の上昇とともに年度末に向けて増加していく。そのため、現時点でも恒常的な生乳需給緩和状況のなか、年度末にはさらに厳しい需給となることが想定される。引き続き危機感を緩めることなく年度末を乗り越えるため、乳業者・生産者における各種取り組みなど業界一体となって継続的に取り組めることが重要となる。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

- (1)12月の生乳生産量は、全国621.1千ト(前年同月比96.2%)、北海道349.5千ト(同95.5%)、都府県271.5千ト(同97.2%)。
- (2)Jミルク予測値(全国619.5千ト、北海道348.1千ト、都府県271.5千ト)との比較は、北海道がやや上振れした分、全国でもわずかに上振れとなった。
- (3)直近の指定団体速報値は1月中旬で全国が同95.6%、都府県(沖縄除く)が同97.2%、北海道は1月下旬で93.9%となっている。



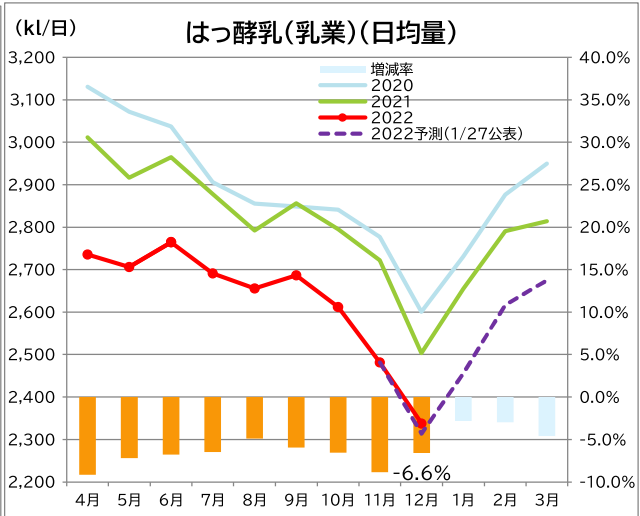
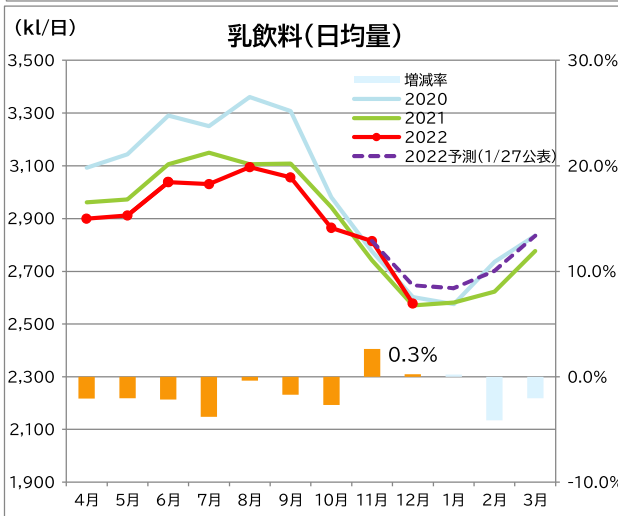
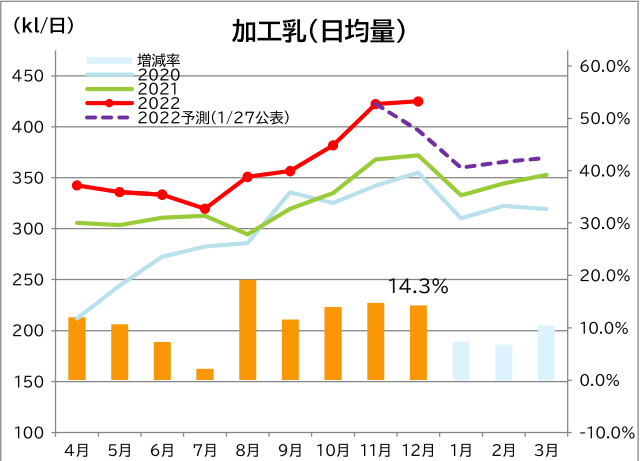
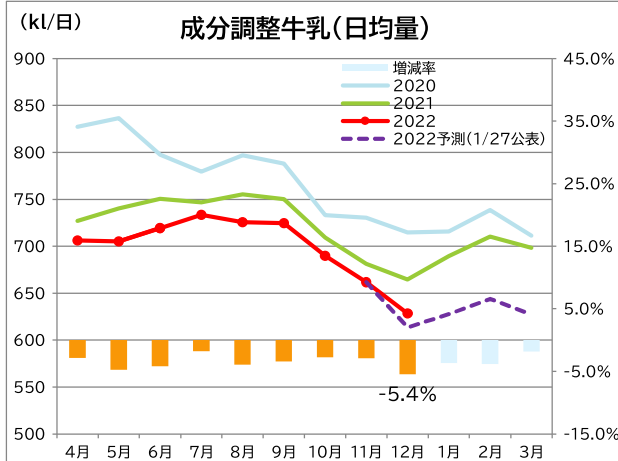
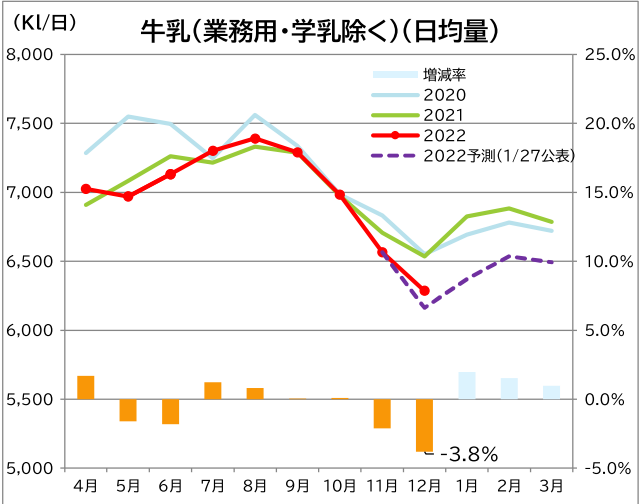
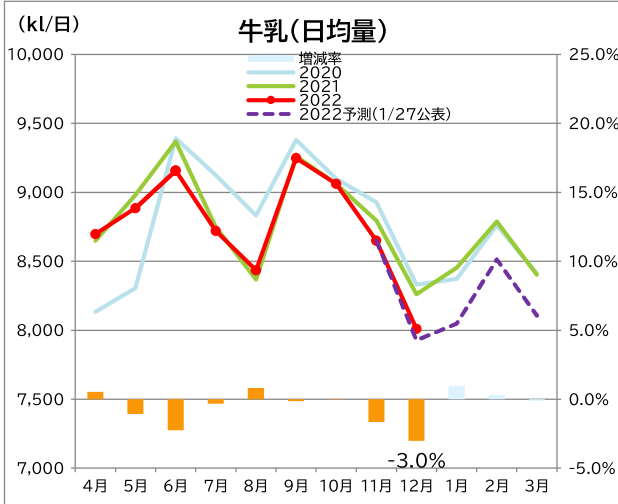
【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)12月の牛乳等生産量は、牛乳248.3千kl(前年同月比97.0%)、成分調整牛乳19.5千kl(同94.6%)、加工乳13.2千kl(同114.3%)、乳飲料79.9千kl(同100.3%)となり、牛乳類合計では360.9千kl(同98.1%)となった。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同96.2%、「業務用」は同105.1%、「学乳」は95.8%。

(3)はっ酵乳(乳業)は72.5千kl(同93.4%)と前年を大きく下回って推移している。

また、非乳業実績(11月)については、同104.5%と前年を上回った。

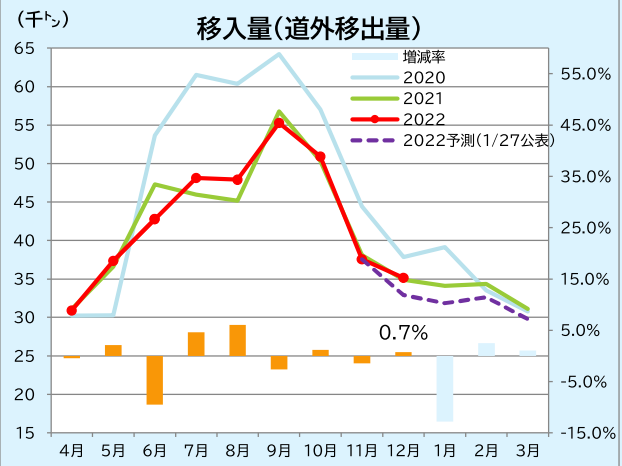
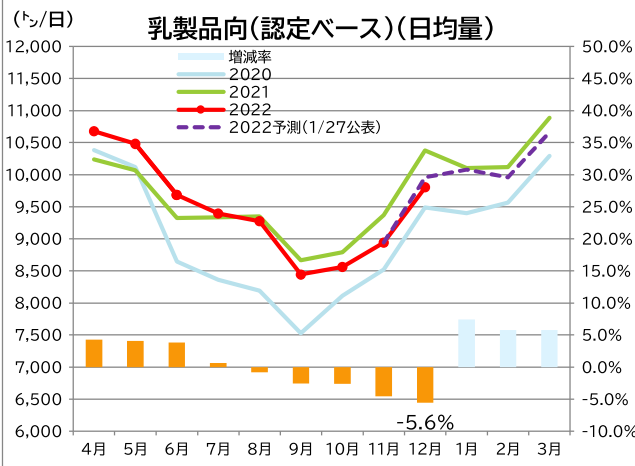
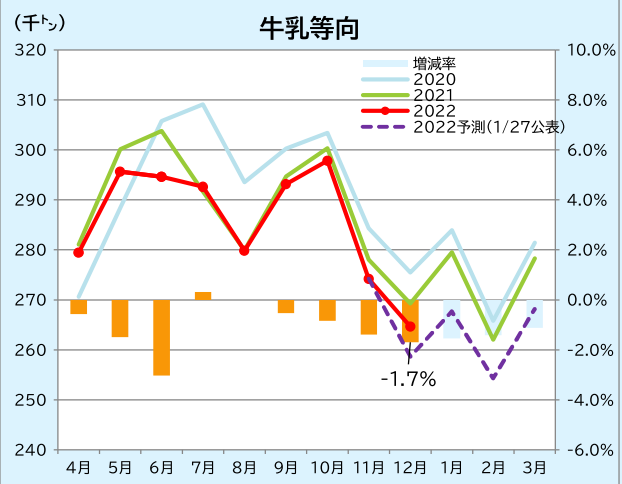
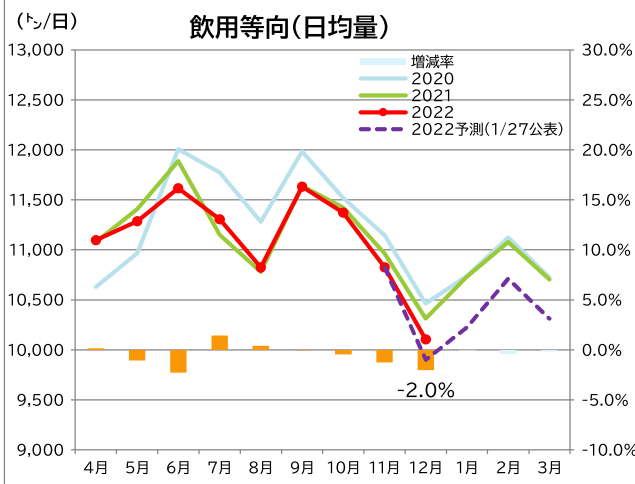
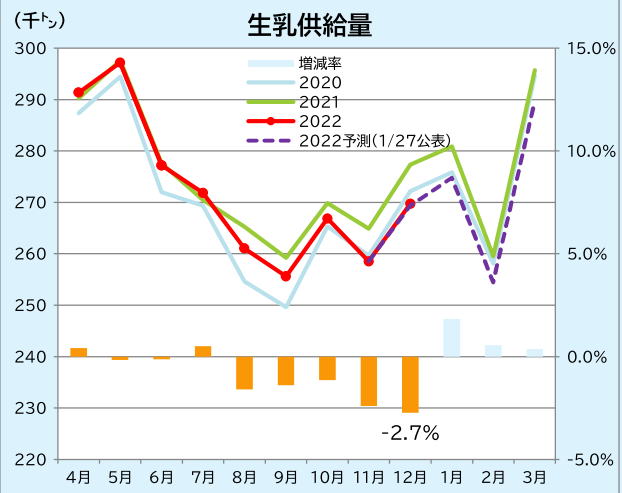
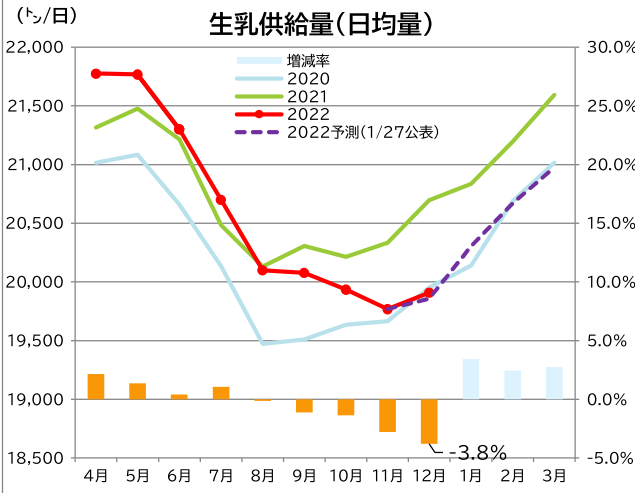


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)12月の生乳供給量は617.2千ト(前年同月比96.2%)、飲用等向313.3千ト(同98.0%)、乳製品向(認定ベース)303.9千ト(同94.4%)。
 (2)飲用等向は前年を下回ったが、生乳供給量の減少幅の方が大きく、乳製品向は前年を下回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:615.6千ト)はやや上振れ、飲用等向(予測値:306.9千ト)は上振れ、結果乳製品向(予測値:308.7千ト)は下振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)12月は、生乳供給量269.8千ト(前年同月比97.3%)、牛乳等向264.7千ト(同98.3%)。
 (2)北海道からの移入量について、35.2千ト(同100.7%)と前年を上回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:269.4千ト)は予測値並み、牛乳等向(予測値:258.6千ト)は上振れ、北海道からの移入量は(予測値:32.9千ト)は上振れとなった。



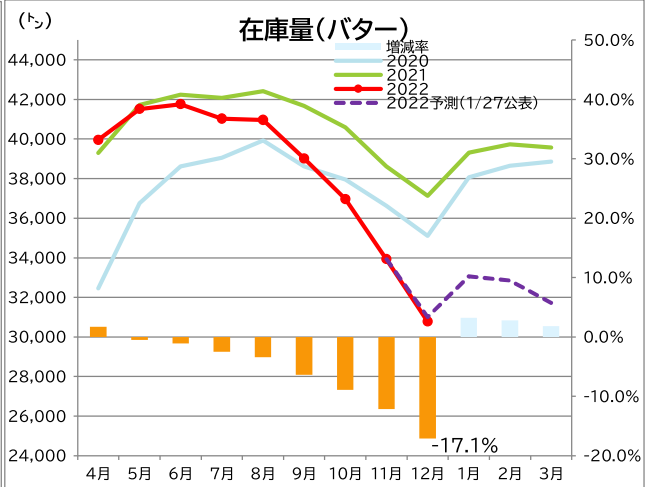
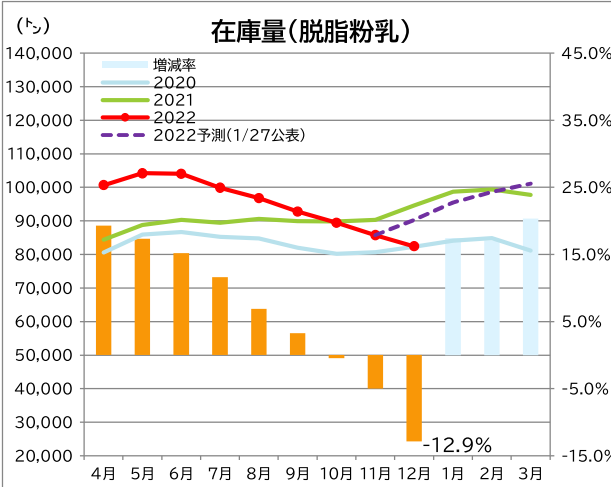
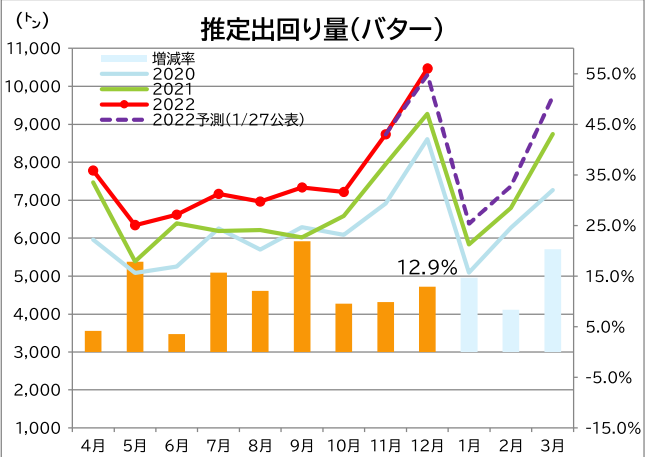
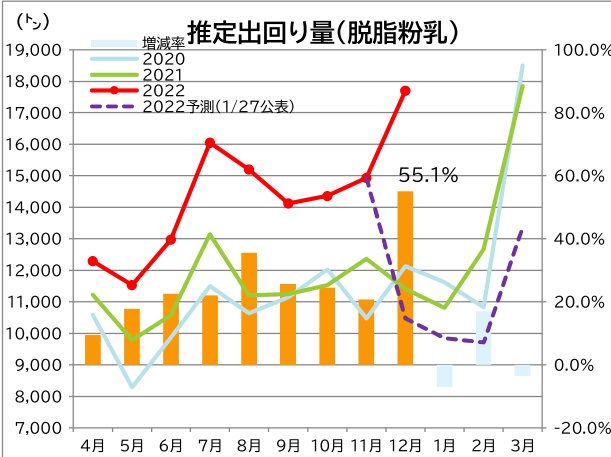
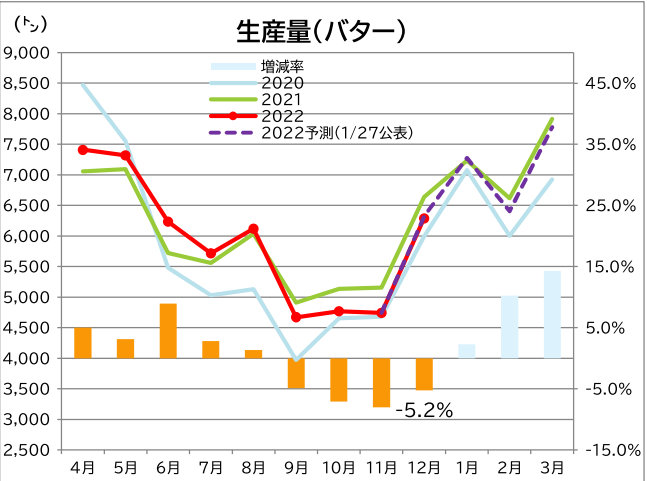
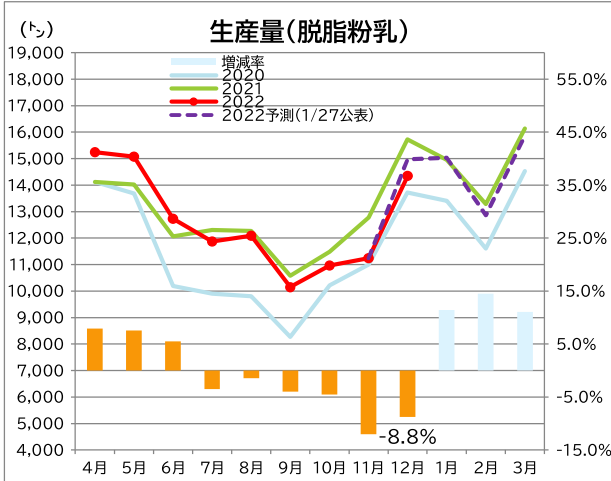
【脱脂粉乳・バター需給】

(1)脱脂粉乳について、12月の生産量は14.3千トン(前年同月比91.2%)、推定出回り量は17.7千トン(同155.1%)。結果、在庫量は82.4千トン(同87.1%)。生産量よりも出回り量が上回ったことから、在庫は前月よりも減少した。国産脱脂粉乳への置換が進められており、在庫量は7か月連続して減少し、3ヶ月連続で前年を下回った。

※推定出回り量には全国協調の在庫対策と北海道(ホクレン)の独自対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、12月の生産量は6.3千トン(同94.8%)、推定出回り量は10.5千トン(同112.9%)。結果、在庫量は30.8千トン(同82.9%)。生産量よりも出回り量が上回っており、国家貿易による輸入売渡分を考慮しても、在庫は前月よりも減少した。在庫量は6か月連続して減少し、8ヶ月連続で前年を下回った。

※推定出回り量には北海道(ホクレン)の独自対策による国産バターへの置換分を含む。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)1月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比92.8%、成分調整牛乳:同88.9%、加工乳:同95.5%、乳飲料:同102.5%。
牛乳類では同93.9%

【参考】2020年度比…牛乳:89.2%、成分調整牛乳:84.5%、加工乳:93.7%、乳飲料:92.7%(牛乳類トータル:89.4%)

・販売単価は、牛乳:207.0円、成分調整牛乳:189.0円、加工乳:200.8円、乳飲料:157.3円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(1.30週)の販売個数は、牛乳:前年同期比92.4%、成分調整牛乳:同88.5%、加工乳:同101.2%、乳飲料:同103.3%。
牛乳類トータルでは同93.8%

【参考】2020年度比…牛乳:90.0%、成分調整牛乳:84.3%、加工乳:98.8%、乳飲料:91.8%(牛乳類トータル:90.0%)

【参考】2019年度比(コロナ禍前)…牛乳:94.3%

※出典 ㈱インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向(1月は速報値)】

単位:千個、円

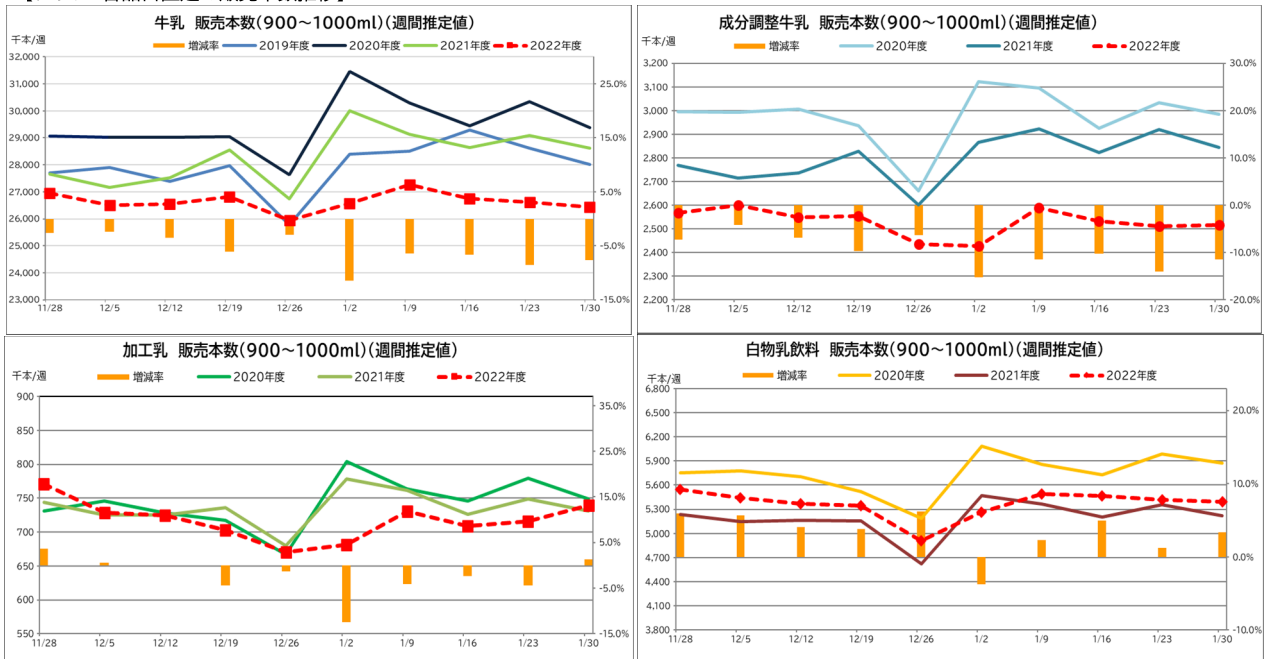
品目	区分	2022/8-	2022/9-	2022/10-	2022/11-	2022/12-	2023/1-
トータル	販売個数	187,097	175,657	171,212	155,485	159,283	152,958
	販売個数前年比	96.5	97.6	98.2	98.2	96.6	93.9
	販売単価	183.7	183.4	183.1	195.7	197.5	198.0
牛乳	販売個数	143,408	133,609	130,277	117,037	120,429	115,620
	販売個数前年比	97.1	97.7	98.3	97.3	95.6	92.8
	販売単価	190.6	190.4	190.2	204.4	206.2	207.0
成分調整牛乳	販売個数	13,647	13,243	12,796	11,463	11,550	10,874
	販売個数前年比	94.3	97.1	97.9	95.6	92.3	88.9
	販売単価	174.8	174.4	173.7	186.9	188.3	189.0
加工乳	販売個数	3,767	3,598	3,476	3,215	3,257	3,068
	販売個数前年比	95.2	97.9	97.2	99.3	98.7	95.5
	販売単価	190.3	190.5	190.1	199.1	199.7	200.8
乳飲料	販売個数	26,276	25,207	24,664	23,771	24,047	23,397
	販売個数前年比	95.0	97.2	97.9	104.2	104.0	102.5
	販売単価	149.9	150.1	149.7	156.7	157.6	157.3

速報

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	12.12-	12.19-	12.26-	1.2-	1.9-	1.16-	1.23-	1.30-
トータル	販売個数	35,186	35,432	33,961	34,944	36,077	35,459	35,263	35,082
	販売個数前年比	97.4	95.0	98.1	89.3	94.5	94.8	92.5	93.8
	販売単価	197.0	197.6	199.3	198.5	197.9	197.7	197.8	197.5
牛乳	販売個数	26,542	26,827	25,945	26,568	27,268	26,752	26,617	26,434
	販売個数前年比	96.5	93.9	97.1	88.6	93.6	93.4	91.5	92.4
	販売単価	205.9	206.3	207.9	207.4	206.8	206.7	206.8	206.5
成分調整牛乳	販売個数	2,548	2,553	2,436	2,428	2,589	2,532	2,511	2,517
	販売個数前年比	93.1	90.3	93.7	84.7	88.6	89.7	86.0	88.5
	販売単価	188.3	188.5	188.5	189.1	189.0	189.0	189.0	188.2
加工乳	販売個数	725	703	671	681	731	709	716	740
	販売個数前年比	100.0	95.4	98.7	87.5	96.0	97.7	95.6	101.2
	販売単価	198.1	200.9	203.6	202.5	200.3	202.0	200.0	197.2
乳飲料	販売個数	5,372	5,349	4,909	5,267	5,488	5,466	5,420	5,392
	販売個数前年比	104.0	103.8	106.2	96.3	102.3	105.0	101.2	103.3
	販売単価	157.2	157.9	158.7	157.3	157.5	157.3	157.3	158.0

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表④参照)

直近(1.30週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比100%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%未満。

(2)全ての品目で前週よりも販売個数が増加した。特にドリンクタイプは再び前年を上回る推移となった。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表④ ヨーグルト類の販売動向】

品目	12.12-	12.19-	12.26-	1.2-	1.9-	1.16-	1.23-	1.30-
ドリンクタイプ	↗	↗	↕	→	↗	↗	↘	↗
個食タイプ	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘
大容量タイプ	↘	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↘

- ↓ : 前年比90%未満
- ↗ : 前年比105%以上110%未満
- ↘ : 前年比90%以上100%未満
- ↕ : 前年比110%以上120%未満
- : 前年比100%以上105%未満
- ↕ : 前年比120%以上

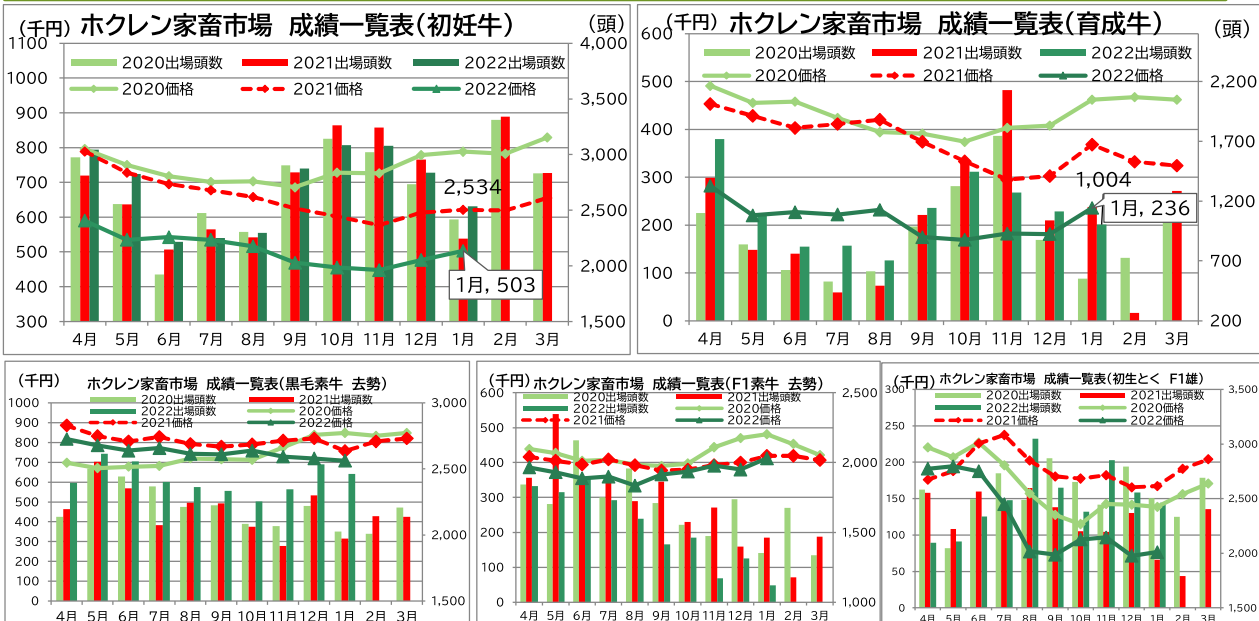
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向】

(1)1月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は503千円(前年同期比81.0%)、育成牛価格は236千円(同64.1%)、和牛素牛(去勢)価格は708千円(同93.5%)、F1素牛(去勢)価格は412千円(同98.3%)、F1初生(雄)価格は76千円(同45.7%)。初妊牛は5ヶ月振りに50万円を上回った。F1初生(雄)は6ヶ月連続で10万円を下回った。

(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同112.8%、育成牛:同87.2%、和牛素牛(去勢):同124.8%、F1素牛(去勢):同76.7%、F1初生(雄):同127.0%。

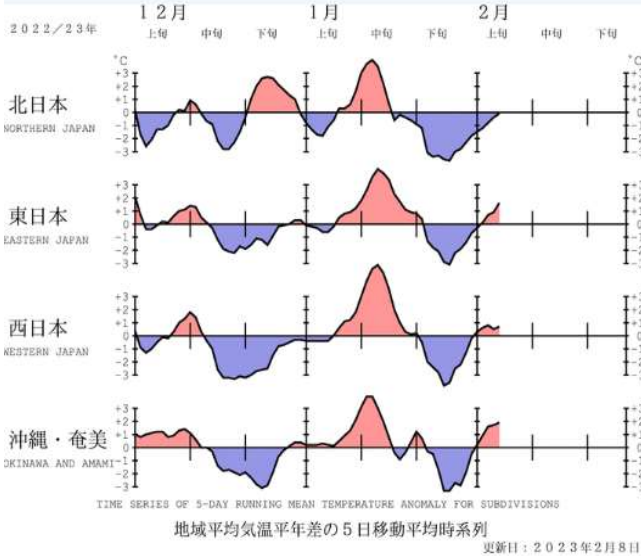
※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)



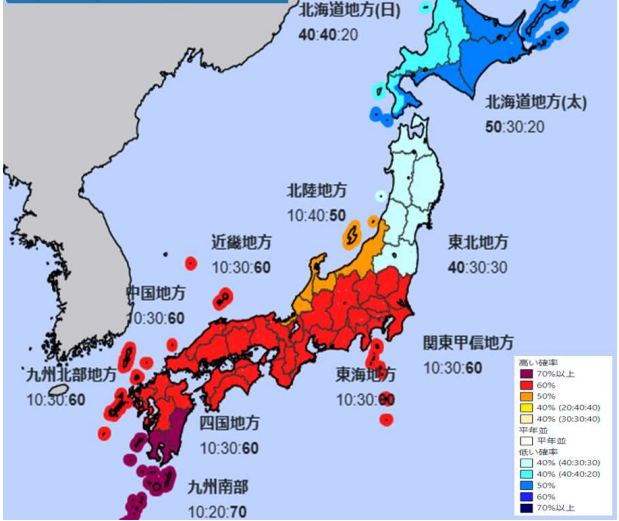
【気象庁HPより全国1ヶ月予報(2/4-3/3)抜粋】

東・西日本と沖縄・奄美では、期間の前半は気温がかなり高くなる所がある見込みです。
 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
 東・西日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。 ※出典:気象庁

前3か月間の気温経過



2023年02月02日14時30分発表
 02/04-03/03の気温



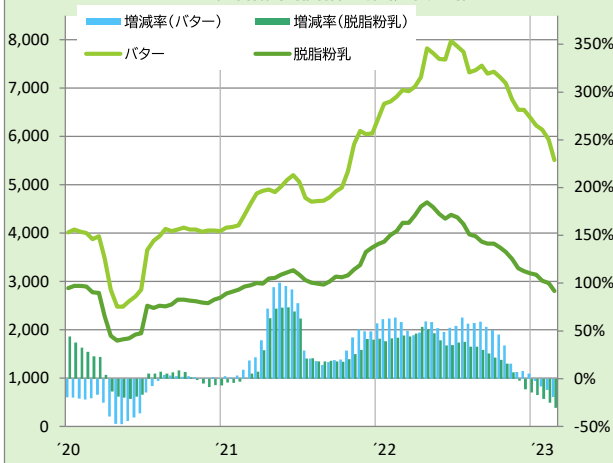
【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(1月下旬)

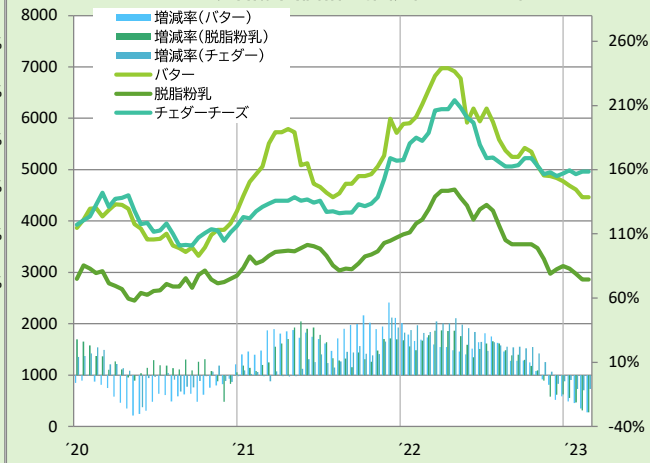
- ・欧州:脱脂粉乳2,800ドル/ト、バター5,500ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳2,900ドル/ト、バター4,500ドル/ト、チェダーチーズは5,000ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)

(US\$/ト)F.O.B.port) 乳製品輸出価格の推移(欧州)



(US\$/ト)F.O.B.port) 乳製品輸出価格の推移(オセアニア)



※「2022年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」